

はじめに

今回の執筆にあたり、根管処置においては特別な「技」がないと言えるかもしれない、ということを感じました。つまり、根管処置というのは、根管腔内をきれいにし、詰めるという作業のみであるからです。

ゆえに、書き出したものの、デンタルダイヤモンド社の意向と合わず、2度、途中でやり直すこととなりました。初回は、自らの考え方を中心にまとめて行いましたが、How to ものの企画に合わずやり直し。2度目は術式を中心に変更したのですが、パターン化に失敗。混乱するのではと、断念しました。

そこで、デンタルダイヤモンド社と打ち合わせながら、今回の運びとなった次第です。

その際、私一人で行うのではなく、仲間の手助けを借りて行うことを承諾いただき、第2章の器具・器材を倉敷市で開業されている森 慎吾先生、森 麻衣先生に、第3章の外形設定を兵庫県の番匠千津先生にお願いして執筆していただきました。残り3章を小生が執筆し、「技」という内容になったかどうかは定かではありませんが、それなりにまとまったと思っております。器具・器材を上手に選択することとともに、上手に使えることを念頭にまとめていったつもりですが、不安は、今までまったく器具・器材に興味のなかった読者には理解しづらい点があるのでは、ということです。しかし、根管処置の、[削って][きれいにして][詰める]、の原則には変わらないので、発想を変えてお読みいただければ幸いです。

また、最近の器具・器材の発展は素晴らしく、想像を超えた処置を望める症例も少なくないことを含めて、説明不足となったところはお許しください。

2009年3月

山田國晶